

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200165		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家鶴里 ユニット1		
所在地	名古屋市南区中江二丁目9番17号		
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&UgyosyoCd=2391200165-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成30年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

音楽療法や体操教室等地域住民の方々に参加していただき地域との関わりを切らない活動の他、週に1度移動スーパーの駐車場所として誘致を行い、利用者が商品を選び購入する楽しみをもち、地域の社会資源を活用している。そして今後想定される【買い物難民】の問題について地域の大切な社会資源として守っていきたいと考えている。また、より利用者が楽しみをもって生活していただけるよう外出・外出レクの企画を増やし対応している。

幹線道路から少し入った閑静な住宅地の中に、3階建てのグループホーム「たのしい家鶴里」がある。1階に小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、2階・3階がグループホームとなっている。近くには公園や小・中学校があり、日々の散歩や買い物などで季節を感じながら過ごせる環境にある。開設して5年目を迎えるホームは地域との関りを大切に、地域住民も参加できる「音楽療法」や「体操教室」などを定期的に継続したり、地域ボランティアの受け入れを積極的に行い入居者や職員も参加して楽しんでいる。週に1回、「移動スーパーの駐車場所」として駐車場を提供し、地域住民と共に入居者も利用し、買い物の楽しみを味わっている。将来的な「買い物難民」にも対応できるような社会資源の場としての継続性を考えている。職員皆で話し合っった事業所理念のもと、管理者と職員はそれぞれに目標をもって日々ケアに努めている。入居者は明るく温かい居間でテレビを観たり、団欒をしたり、1階の小規模多機能施設でイベントのある時は参加して楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
I. 理念に基づく運営			
1 (1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成しており、利用者が楽しみをもって生活できるようイベントの企画や、安心していただけるよう医療機関との連携を密に図っている。	9項目の法人理念を基本とした事業所独自の理念を作成し事務所に掲示している。職員会議や研修会、カンファレンス等で折に触れ確認し共有しながら日々のケアに活かしている。	
2 (2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	音楽療法や体操教室、地域を交えた夏祭り、移動スーパーの利用等で交流を行う他、地域の盆踊り大会等に参加している。	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議等で地域の情報を得て盆踊りや運動会、地域清掃等地域行事に参加したり、事業所の情報発信をしている。また、週1回の移動スーパーの場所提供をし、入居者と地域の方が一緒に利用することで地域交流を深めている。地域の方々と交えた音楽療法や体操教室等の事業も継続している。日々の散歩や買い物、子供110番等を通じて地域との関わりを大切にしている。	
3 ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	【なかええcafé】という当事業で行っている認知症予防カフェにて認知症に関する話を行っている。		
4 (3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で意見交換の場を設けており、そこで挙げた意見をサービスの改善に活かしている。	運営推進会議は家族や公民会長、行政関係者、管理者、計画担当者が参加し2か月に1回開催されている。運営報告やサービスの状況報告の他、参加者からの意見や要望は検討しサービスの改善や運営に活かしている。開催曜日を変更する等して参加者の増員を工夫している。議事録は全家族に配布している。	
5 (4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営の中で出てくる曖昧な点等があればその都度保険者の確認をとっている。	困難事例や事業運営の中で出てくる曖昧な点等があれば、その都度市の関係窓口に出向き、指導を受けたり確認をするなど密接に連携を取り関係性を深めている。市が開催する研修に参加している。	
6 (5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を実施し、身体拘束の理解を深めている。また身体拘束適正化委員会にて身体拘束排除に向けての取り組みを行っている。	社内研修を実施し、スピーチロック等を含め身体拘束についての理解を深めている。スタッフ会議では事例を挙げて話し合い、「身体拘束委員会」に報告している。3ヶ月毎の「身体拘束適正委員会」では排除に向けての取り組みを協議し、運営推進会議でも議題に挙げている。現在ベット柵を使用している現状報告や意見を参考に、拘束感のないケアに努めている。ホームの出入り口は安全性を考慮し施錠している。	
7 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を実施している他、介護職には通報の義務があることを伝え、虐待防止に努めている。		

自己部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を実施しているが、詳細には職員は理解できてはいない。必要に応じて保佐人を立てる等し、支援を行っている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時不明な点等確認を取りながら説明を行い理解・納得をえている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で意見交換の場を設けており、そこで挙げた意見をサービスの改善に活かしている。また職員と家族との関係性を築いているため来訪時に意見・要望を聞く場合もある。	入居者からは、日々のケアを通して希望や要望を聞いている。家族からは運営推進会議や面会、行事で来訪時に意見や要望を聞き、その場で話し合ったり、職員会議などで話し合いサービスの改善や運営に活かしている。検討内容や結果はホーム便りで知らせている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフ会議の場で職員からの意見・提案の場を設け運営に反映している。	日常業務の中や月に1度のスタッフ会議等で意見や提案、要望を聞いている。年1回の職員アンケートでは、内容を分析して問題や課題については速やかに対処したり、都度の相談にも対応している。人事考課を実施し、個人面談ではゆっくり話し合いを持つようになっている。職員からの意見や提案は運営に反映させている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	独自の人事制度で伸びた面のみを評価し、向上心に繋げている。また段位認定を行い、資格・能力に応じた賞与を設け、資格取得支援や個々のスキルアップを図っている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護に関わる研修(実践者研修)等研修を受講していただき、研修に合わせて勤務予定を組み働きながら取得できる対応をしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	頻度は少ないが、地域の講習会に参加し、情報交換を行っている。		

己 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自立した生活を営むために、必要に応じて福祉用具等の手配を行い、安心・安全の確保に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者が主となり、要望を聞き入れ、利用者の思いを考慮した上で介護計画作成を行っている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援内容で当事業所では対応が出来ない際には他サービスの提案をさせていただいている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生きがい・やりがいを大切にして調理を一緒に行ったり、洗濯物をたたんだり、協力しながら生活を共にする関係作りを行っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にする意味でも今年度、行事のなかで利用者と家族が協力し合うイベントを企画した。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の場所がどうなっているか不安な利用者もみえるため近隣であれば、職員と見に行くこともある。また馴染みの人は来訪が多くいつでも気軽に来ていただけるよう対応している。	近隣の地域に居住していた入居者が多く、知人などの来訪者も多くあったが、年と共に少なくなってきた。来訪者があった時はいつでも気軽に来ていただけるような言葉がけをしている。週1回の移動スーパーで知人や馴染みの人と出会い、旧交を温め合ったり、自分が住んでいた自宅付近を職員と見に行くこともある。また、年賀状など季節のあいさつ状を出したりして馴染みの関係継続に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来る限りフロアに出て頂いて、孤立せず顔なじみの関係が築けるよう支援している。		

自己部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば経過のフォローを行う体制ではあるが、事業所から積極的なアプローチは行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの中で本人のいきがい・やりがいに配慮し、支援内容の検討を行っている。	日々の関りの中で傾聴や観察に努め、得た情報をカンファレンス等で話し合い、本人の「生きがい」や「やりがい」に繋がるように支援内容の検討を行い、介護計画に盛り込んでいる。意思疎通の困難な人は表情やしぐさから察したり、家族の協力を得て、本人本位に検討している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションの中から、アセスメント時には拾えなかった情報等を関係性構築の上で聞き出している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その都度、何時もと違う状態に気づき、それに応じて他職種との連携を取る等支援方法を変更している。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や関係者については事前に電話でのヒヤリングを行い、カンファレンスで話し合いの場を持ち介護計画作成を行っている。	家族からは、来訪時や電話等で事前に意見や意向を聞き、主治医や看護師、薬剤師等関係者、職員、計画担当者で入居者の状況を基に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。基本的に1か月に1回のカンファレンスで情報交換を行い、3ヶ月毎のモニタリングを経て半年に1回計画の見直しを行っている。状態に変化があれば随時見直しを行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや申し送りの中で情報共有を行い、支援に活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	転倒等の不必要な事故を防ぐためにも、訪問マッサージや福祉用具の利用を行い予防に努めている。		

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
			項目
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の回覧や広報には目を配り、活用できるものがあれば取り入れていく考えをもっている。	
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医にて対応しており、急な熱発等状態に変化があれば連絡を取り合い、臨時の往診をしていただいている。	入居時に今までのかかりつけ医か協力医かの希望を聞いている。内科の往診が月2回あり、歯科や眼科の往診もあることから、入居者全員が協力医を主治医としている。緊急時の状態変化による往診や、週1回の訪問看護もあり、適切な医療が受けられるような支援に努めている。
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に状態変化等の連絡を行っている。	
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に赴いて状況を把握し、退院時に以前の内容と変更になる場合には事前に準備を行っている。	
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針については契約時と重度化した際に説明を行っている。また事前に他職種を交えて家族側と支援内容について話し合いを行っている。	入居時に事業所の重度化指針について説明し意向を確認している。状況が変化した場合は早い段階から家族や本人と話し合い再度の意向確認をしている。状況に応じて家族や医師、看護師、職員等関係者で支援内容について話し合い連携を取りながら看取り支援を行っている。看取りケアや職員のメンタルケアの研修を行い、支援内容の充実に努めている。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修の中で緊急時の対応について知識を身につけてはいるが、訓練は行えてはいない。	
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度地域の防災訓練に参加し、自主防災の状況を知る機会が持てた。また家族との安否報告について災害用伝言ダイヤルを活用していくことに取決め有事の対策を行っている。	年2回、火災や水害を想定した避難訓練を行い、うち1回は消防署の協力を得ている。災害時の一時避難所にもなっているため今年度は地域の防災訓練に参加し、自主防災の状況を知ることが出来た。また、家族との安否確認には災害用伝言ダイヤルを活用していく事を取り決めるなど災害対策を進めている。地域との協力体制については模索検討中である。備蓄は入居者と職員を含めて3日分の準備している。

自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36 (14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	もし自分であつたらと置き換えて考えるようにし、一人ひとりの尊重、プライバシーの確保に努めている。	入居者の生活スタイルに合わせたケアを心掛け、ひとり一人の人格を尊重したり、プライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。「もし自分であつたら」と立場を置き換え考えながらケアを行っている。接遇や人権、虐待防止等の研修には全員が参加し、質の良い支援の実施に努めている。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思決定や自己決定ができるよう、職員は状況・状態に応じてクローズドクエッションやオープンクエッションにて対応している。	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中利用者はフロアで過ごされることが多い。但し、利用者の状態に応じて居室で休めるよう配慮している。	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通がとれる利用者にご自身で服を選択していただき、化粧品を購入し、その人らしい生活ができるよう支援している。	
40 (15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる活動に合わせ、食事の調理や配膳、テーブル拭き等分担して行っている。	食材と献立は業者に委託し事業所で調理をしている。献立は入居者の希望や季節の食材を取り入れるなど食の楽しみを工夫している。米やパン、牛乳、調味料等は地域の店で購入している。一人ひとりの保有能力に合わせ、食事の調理や配膳、テーブル拭き等職員と一緒にしている。イベント時の行事食や外食ツアー、月1回のおやつ作りは楽しみの一つとなっている。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じて食事形態を変えて提供している。また食事量が落ちてきた際には医療職に相談し、経腸栄養剤等に対応する等している。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、必要に応じて声掛け、介助を行っている。また歯科往診にて口腔内の清潔保持を図っている。	

己 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43 (16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意がない利用者については、定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄チェック表を基に排泄パターンを考慮しながら表情やしぐさなどを観察し、さりげないトイレ誘導をしている。尿意や便意がない方については、定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう支援をしている。便秘予防では日々の体操や食品などで、出来るだけ自然排便を促す支援に取り組んでいる。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操や、地域で毎日頼んでいる乳製品で自然排便が出来るように取り組んでいる。		
45 (17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は取決めがあるものの入浴を拒まれる際には時間をずらしたり、日を改めて対応している。	週2～3回の入浴を基本としているが希望があれば出来る限り対応している。時間の取決めがあるが、入浴拒否がある場合には時間をずらしたり、日を改めて対応している。湯は毎回入れ替え清潔保持に努めている。同性介助への対応や冬季はヒートショック予防の配慮もしている。季節を楽しむ菖蒲湯やゆず湯なども行っている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が起きないように配慮しながら、利用者の状態に応じて日中の休息がとれるように対応している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の副作用を理解し、飲み忘れがないように服薬介助・飲み込みまでの確認を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に応じて料理や裁縫等ができる機会をもっている。また嗜好品が購入出来るよう移動スーパーを活用して買い物に出掛けている。		
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候がよい日には夏季を除いては散歩に出掛けている。また利用者の楽しみを持った生活をしていただけるよう外出・外食イベントを以前よりも多く企画している。	天候が良い日には近隣の公園を散歩したり、買い物などに出かけている。また入居者が楽しみを持った生活が出来るように、フロア毎に月1回の外出や外食イベントを多く企画するよう努めている。季節の初詣や花見、いちご狩り、紅葉狩りなど楽しんでいる。	

自己部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて管理しているが、移動スーパー時には嗜好品が購入できるように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末には利用者と年賀状を作成し、家族に郵送している。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じての掲示物を作成し、室内でも四季を感じられるように配慮している。	共用の居間は明るく広く落ち着いている。壁には職員と共に作成した季節の作品が飾られている。共用空間は湿・温度調整がされ、不快な臭いや音もなく快適な空間となっている。明るい日差しの穏やかな雰囲気の中で入居者はテレビを観たりソファでゆったりくつろいでいる。職員と一緒に掃除をする方もいる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士での話はテーブルを囲んで行われることが多く、独りになりたい際にはソファで過ごされている。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅で使用されていた馴染みの物をお持ちいただいて環境の変化が軽減できるように支援している。	入居者は自分の好きな写真や飾りの置物などを持ち込み自分の部屋作りをしている。出来る限り自宅で使用していた馴染みの物を持ち込み、自宅にいるような環境作りを工夫し落ち着いて安心できる居室作りを支援している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子対応等一人ひとりの状態に合わせた洗面所の造りや手摺や介助バーの設置を行っており、自立した生活が送れる環境整備を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200165		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家鶴里 ユニット2		
所在地	名古屋市南区中江二丁目9番17号		
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果市町村受理日	平成31年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&UgyosyoCd=2391200165-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成30年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

音楽療法や体操教室等地域住民の方々に参加していただき地域との関わりを切らない活動の他、週に1度移動スーパーの駐車場所として誘致を行い、利用者が商品を選び購入する楽しみをもち、地域の社会資源を活用している。そして今後想定される【買い物難民】の問題について地域の大切な社会資源として守っていきたいと考えている。また、より利用者が楽しみをもって生活していただけるよう外出・外出レクの企画を増やし対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った閑静な住宅地の中に、3階建てのグループホーム「たのしい家鶴里」がある。1階に小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、2階・3階がグループホームとなっている。近くには公園や小・中学校があり、日々の散歩や買い物などで季節を感じながら過ごせる環境にある。開設して5年目を迎えるホームは地域との関りを大切に、地域住民も参加できる「音楽療法」や「体操教室」などを定期的に継続したり、地域ボランティアの受け入れを積極的に行い入居者や職員も参加して楽しんでいる。週に1回、「移動スーパーの駐車場所」として駐車場を提供し、地域住民と共に入居者も利用し、買い物の楽しみを味わっている。将来的な「買い物難民」にも対応できるような社会資源の場としての継続性を考えている。職員皆で話し合っった事業所理念のもと、管理者と職員はそれぞれに目標をもって日々ケアに努めている。入居者は明るく温かい居間でテレビを観たり、団楽をしたり、1階の小規模多機能施設でイベントのある時は参加して楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成しており、利用者が楽しみをもって生活できるようイベントの企画や、安心していただけるよう医療機関との連携を密に図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	音楽療法や体操教室、地域を交えた夏祭り、移動スーパーの利用等で交流を行う他、地域の盆踊り大会等に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	【なかええcafé】という当事業で行っている認知症予防カフェにて認知症に関する話を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で意見交換の場を設けており、そこで挙げた意見をサービスの改善に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営の中で出てくる曖昧な点等があればその都度保険者の確認をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を実施し、身体拘束の理解を深めている。また身体拘束適正化委員会にて身体拘束排除に向けての取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を実施している他、介護職には通報の義務があることを伝え、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を実施しているが、詳細には職員は理解できてはいない。必要に応じて保佐人を立てる等し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時不明な点等確認を取りながら説明を行い理解・納得をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で意見交換の場を設けており、そこで挙げた意見をサービスの改善に活かしている。また職員と家族との関係性を築いているため来訪時に意見・要望を聞く場合もある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフ会議の場で職員からの意見・提案の場を設け運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	独自の人事制度で伸びた面のみを評価し、向上心に繋げている。また段位認定を行い、資格・能力に応じたの賞与を設け、資格取得支援や個々のスキルアップを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護に関わる研修(実践者研修)等研修を受講していただき、研修に合わせて勤務予定を組み働きながら取得できる対応をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	頻度は少ないが、地域の講習会に参加し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自立した生活を営むために、必要に応じて福祉用具等の手配を行い、安心・安全の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者が主となり、要望を聞き入れ、利用者の思いを考慮した上で介護計画作成を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援内容で当事業所では対応が出来ない際には他サービスの提案をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生きがい・やりがいを大切にして調理を一緒に行ったり、洗濯物をたたんだり、協力しながら生活を共にする関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にする意味でも今年度、行事のなかで利用者と家族が協力し合うイベントを企画した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通っている店に職員と出かけている。また馴染みの人は来訪が多くいつでも気軽に来ていただけるよう対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来る限りフロアに出て頂いて、孤立せず顔なじみの関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば経過のフォローを行う体制ではあるが、事業所から積極的なアプローチは行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの中で本人のいきがい・やりがいに配慮し、支援内容の検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションの中から、アセスメント時には拾えなかった情報等を関係性構築の上で聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その都度、何時もと違う状態に気づき、それに応じて他職種との連携を取る等支援方法を変更している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や関係者については事前に電話でのヒヤリングを行い、カンファレンスで話し合いの場を持ち介護計画作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや申し送りの中で情報共有を行い、支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	転倒等の不必要な事故を防ぐためにも、訪問マッサージや福祉用具の利用を行い予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の回覧や広報には目を配り、活用できるものがあれば取り入れていく考えをもって		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医にて対応しており、急な熱発等状態に変化があれば連絡を取り合い、臨時の往診をしていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に状態変化等の連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に赴いて状況を把握し、退院時に以前の内容と変更になる場合には事前に準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針については契約時と重度化した際に説明を行っている。また事前に他職種を交えて家族側と支援内容について話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修の中で緊急時の対応について知識を身につけてはいるが、訓練は行えてはいない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度地域の防災訓練に参加し、自主防災の状況を知る機会が持てた。また家族との安否報告について災害用伝言ダイヤルを活用していくことに取決め有事の対策を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	もし自分であったらと置き換えて考えるようにし、一人ひとりの尊重、プライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思決定や自己決定ができるよう、職員は状況・状態に応じてクローズドクエッションやオープンクエッションにて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中利用者はフロアで過ごされることが多い。但し、利用者の状態に応じて居室で休めるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通がとれる利用者のご自身で服を選択していただき好きな服を着用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる活動に合わせ、食事の調理や配膳、テーブル拭き等分担して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じて食事形態を変えて提供している。また食事量が落ちてきた際には医療職に相談し、経腸栄養剤等に対応する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、必要に応じて声掛け、介助を行っている。また歯科往診にて口腔内の清潔保持を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意がない利用者については、定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操や、地域で毎日頼んでいる乳製品で自然排便が出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は取決めがあるものの入浴を拒まれる際には時間をずらしたり、日を改めて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が起きないように配慮しながら、利用者の状態に応じて日中の休息がとれるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の副作用を理解し、飲み忘れがないように服薬介助・飲み込みまでの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に応じて料理や裁縫等ができる機会をもっている。また嗜好品が購入出来るよう移動スーパーを活用して買い物に出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候がいい日には夏季を除いては散歩に出掛けている。また利用者の楽しみを持った生活をしていただけるよう外出・外食イベントを以前よりも多く企画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額あれば利用者に応じて所持していただき、その他は事業所にて管理している。但し移動スーパー時には嗜好品が購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末には利用者と年賀状を作成し、家族に郵送している。また遠方の家族に対して電話で連絡をとれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じての掲示物を作成し、室内でも四季を感じられるように配慮している。また、カレンダーを作成し、リアリティーオリエンテーションを活用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士での話はテーブルを囲んで行われることが多く、独りになりたい際にはソファで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅で使用されていた馴染みの物をお持ちいただいて環境の変化が軽減できるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子対応等一人ひとりの状態に合わせた洗面所の造りや手摺や介助バーの設置を行っており、自立した生活が送れる環境整備を行っている。		